

決算特別委員会 9月22日～26日

決算特別委員会(議長を除く36人の議員で構成、委員長安部重幸議員、副委員長中村桂三議員)は、決算10件の議案について付託を受けて3日間の審議を行いました。

今定例会では、新市となってからの半年分の決算が審議され、新市が実施してきた施策全般にわたり活発な質疑が交わされました。その結果、全10議案が原案のとおり認定されました。



委員会審議では活発な議論が交わされた

木工団地の現状と課題は

市税等の収納対策について

【質問】 税金等を徴収するため、遠野市市税等収納対策プロジェクトチームを編成して徴収しており、17年度には1,220人がかかっているが、経費はどうなのか。

【答弁】 平成15年からプロジェクトを開始し、年間3回の戸別訪問をしている。勤務時間等については勤務の割り振りで対応しており、時間外等の経費は出していない。

【質問】 設立当初は収納率も良かったが、16、17年と年々悪くなってきている。どのような協議をして進めているか。

【答弁】 地域の職員が戸別訪問するためか、長期滞納者はあまり効果がでない。そのため18年度からは短期滞納者に絞り戸別訪問を実施している。これは新たな滞納者をこれ以上出さないという視点で取り組んでいる。

斎場の整備について

【質問】 斎場の内装の整備が完了し、市民に感謝されているが、火葬が日に三回もある時は待合室が混み合い、休む場所が無く、斎場へ行く道路も狭く、場所も悪く、築後27年も経過している。炉の修理にも莫大な修繕費もかかるので、便利な場所に新築すべきと思うがどうか。計画するとすれば、いつの時期なのか。

【答弁】 新市総合計画に基づき更新をする。平成21年から23年の間に整備する計画で進めている。

【質問】 建設場所等を間違いないよう選定するために推進委員会を立ち上げて検討すべきではないか。

【答弁】 前期5カ年計画の中で、推進委員会を立ち上げ、市民の意見も聞きながら進めていく。

ホップ・タバコ等復活の考えは

【質問】 現在当市では、アスト等も立ち上がり、新しい作物の導入や産地づくりに取り組んでいる最中である。勿論それも大切ではあるが、既存の作物に目を向けた場合、例えば契約栽培的なタバコやホップは、年々衰退してきているが売り先や価格の面で比較的安定していると認識している。

ホップにおいては、かつて100haの面積であったものが現在では44haにまで減少している。メーカーとの話し合いや後継者の育成等がかつての100haまで増やす考えはないか。

【答弁】 ホップについては、初期投資額が高いとか高所での作業が多い等の理由で栽培面積が減ってきているのは事実であるが、時代に合った品種への切り替えや、企業参入等も含めた高所作業への対応なども検討して前向きに取り組みたい。

森林整備・林業振興をどう進めるか

【質問】 里山美林推進事業は市内4つの学校で取組むということで子ども達の参画がある。昔から山との関りが幼少のころから自然にあった。教育の中に山との関りをきちんと位置づけ、市民協働と併せて推進できないものか。

【答弁】 この事業の意図するところはそのとおりであり、親と子供が一緒になって取組み、教育の現場にも融合させた事業として取組んでいきたい。

【質問】 木工団地内全体の動向、経営状況と今後の課題はどうなっているか。

【答弁】 売上げでは16年度までは全体的に堅調な推移をしてきているが、経営の状況については、総じて4割は堅調であり、残りの6割は非常に厳しい状況で推移している。木造構造建築物の他市町村への普及推進を図るなど、今後の課題は大きいと考えている。